

令和6年度

学 力 向 上 プ ラ ン  
【後期】

上尾市立太平中学校

# 目 次

上尾市立太平中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」	1
1 学力調査結果の概要	
(1) 上尾市立小・中学校学力調査（令和6年1月実施）	2
【1～2年：国語、数学、英語】	
(2) 全国学力・学習状況調査（令和6年4月実施）	6
【3年：国語、数学】	
(3) 埼玉県学力・学習状況調査（令和6年4、5月実施）	7
【1年：国語、数学】	
【2～3年：国語、数学、英語】	
2 学力向上を図る取組	
(1) 各教科の授業における取組	10
(2) 教育活動全体を通じた取組	12
本校の特色ある取組	
家庭教育との連携	

# 上尾市立太平中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

## 学校教育目標

社会に貢献できる人材の育成

校訓 ～凡事徹底～

## 学校課題研究主題

自ら主体的に考え、仲間と共に学び続ける生徒の育成  
～特別支援教育の視点を取り入れた授業実践を通して～

## 学力・学習状況調査の結果

### R6 全国学力・学習状況調査

**[国語]** 我が国の言語文化に関する事項は9.6ポイント県平均より上回っている。知識及び技能については県平均と大きな差はない。「話すこと・聞くこと」に課題がある。

**[数学]** 知識・技能面に関しては全国・県平均を上回っている一方で、思考・表現・判断において全国・県平均を大きく下回っている。記述問題に対する苦手意識の改善に課題がある。

### R6 埼玉県学力・学習状況調査

**[国語]** 第1学年および第2学年は「話すこと・聞くこと・書くこと」の領域が県平均より上回っている。第3学年は情報の扱い方、我が国の言語文化が県平均よりも少し上回っている。

**[数学]** 計算等の技能面で県平均を上回る力をもつ一方で、全学年に共通して図形や関数に対する知識、記述問題・思考問題に対して苦手としている傾向が見られる。

**[英語]** 第2学年は学習調整能力に課題が見られる。第3学年は柔軟な方略と作業方略が県平均より下回っている。

### R5 上尾市立小・中学校学力調査

**[国語]** 第1学年は「話すこと・聞くこと」の領域は全国平均を上回っている。第2学年は「主体的に学習に取り組む態度」の観点において、目標値を7.5ポイント上回っている。

**[数学]** 他テスト同様、記述式に対する苦手意識をもつ傾向が表れている。主体的に学習に向かう態度の改善が課題である。

**[英語]** 書いて答える問題に課題が見られる。第1学年は主体的に学習に向かう態度の数値が低い。両学年とも正答率度数分布に二極化が見られる。

## 本校で身に付けさせる学力

### 知識及び技能の習得

- ①読む、聞く、話す力の育成
- ②計算力の育成
- ③知識・技能に繋がる理解力

### 思考力・判断力・表現力等の育成

- ④課題や問題に向き合い、解決していく力の定着
- ⑤自らの考えや思いを伝える力の育成

### 学びに向かう力・人間性等の涵養

- ⑥粘り強く学習に取り組む姿勢や態度
- ⑦自らの学習方法や態度がより良いものになるように調整する力

## 学力向上のための授業改善

### 知識及び技能の習得

- ドリル学習の充実  
漢字練習、計算練習、小テスト、まなびポケット等で自動採点ドリル学習の実施。
- ICT 端末の活用  
Chromebook を活用し、よりわかりやすい授業を行う。

### 思考力・判断力・表現力等の育成

- 課題設定の工夫  
身近な話題や興味のある課題を設定し、思考力・判断力を高める授業を行う。
- 表現力を高める授業  
論述やレポートの作成、発表、作品の制作や表現など多様な活動を取り入れる。

### 学びに向かう力・人間性等の涵養

- 興味関心を高める工夫  
本時の課題や評価を明示することで授業への参加意識を高める。
- 振り返りの時間の設定  
授業の終末に振り返りの時間を設定し、次の授業への意識付けを図る。

## 本校の特色ある取組

- 太平中レインボープランの実施  
〔挨拶〕〔高唱〕〔表明〕〔傾聴〕〔称揚〕〔整頓〕〔黙読〕
- T・L・I (太平ラーニングイノベーション) の実施  
協力して問題を解く活動を通して、協働する喜びを知り、協働の仕方を身に付ける
- 太平ゼミの実施  
部活動停止期間中に、課題を持ち寄り学習する
- 朝読書における読み聞かせの実施

## 家庭教育との連携

- 道徳通信 (道しるべ) の発行 (毎月1回)
- 学校だより、学年だよりの発行
- 保健だより、情報通信、進路指導通信の発行
- 三者面談の実施
- さくら連絡網で情報を確実に届ける

# 1 学力調査結果の概要

## (1) 上尾市立小・中学校学力調査(令和6年1月実施)

### 1年(令和6年度2年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○話すこと・聞くこと(+10.8ポイント)、読むこと(+1.1ポイント)それぞれ目標値を上回っている。 ●言語文化に関する事項については、目標値を21.2ポイント大きく下回っており、課題が見える。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	古典の単元の復習が不足していたため、既習事項の定着化を図る学習が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	▼	
国語科の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いの読み方、漢文の読み方のきまり等の復習。</li> <li>・情報の扱い方に関する事項を問題演習を通して学ぶこと。</li> </ul>		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	古典作品の読解	歴史的仮名遣いや古典の文章を理解している。	現代仮名遣いに直すルールを身に付け、古典の文章の特徴(主語や助詞の省略)をつかむ学習を繰り返す。
②	情報の活用	情報を読み取り、必要に応じて活用している。	活用力を問う資料を使った問題演習を繰り返す。

### 1年(令和6年度2年)【数学】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		△	○目標値と比べ教科全体で+0.8、基礎+2.0、知識・技能+3.1ポイント上回っている。 ●目標値と比べ活用2.8、思考・表現・判断は4.8ポイント下回っている。 ●目標値と比べ主体的に学習に取り組む態度は4.8ポイント下回っている。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	▼	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	▼	正答率の度数分布より、20%未満の生徒が市町村平均に比べ2倍近くおり、平均正答率を押し下げているとともに、小学校段階からのつまずきが多分に含まれていると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	▼	
数学科の重点目標	図形分野の授業においては、既習事項を積極的に扱うなど、身につけていないことを前提に授業を進める。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	図形体積	図形の基礎的な知識の確認を図る。	長方形の面積をベースに視覚的に理解できるように指導する。
②	記述の問題	記述に対する苦手意識を薄める。	完璧に書かないと丸をもらえないという意識を軽減するために、どんな記述であっても書こうという意思を見せた場合は点数を与えるなどして対応する。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

# 1年(令和6年度2年)【英語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○目標値に対して、聞くことが0.6ポイント上回っている。 ●記述が10ポイント、目標値を下回っている。 ●主体的に学習に取り組む態度が低い。 ●正答率度数分布の30%台が2番目に多い分布になっている。 ●書いて答える問題に課題が見られる。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	入学段階でかなりの学力差、学習意欲の差があるとともに、記述問題の演習が足りず、学力が定着していないと考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	▼	
英語科の重点目標	授業において、基本的な文法構造の定着を図り、それを用いた記述問題に取り組ませる。		

## 重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文章を書かせる	自分の考えを端的にまとめ、英語で表現する力をつける。	スモールステップで段階的に文章を構成していく。
②	Q&A	問題の意図や内容をしっかりつかませ、適切に答える力をつける。	パターンプラクティスを用いる。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

# 1 学力調査結果の概要

## (1)上尾市立小・中学校学力調査(令和6年1月実施)

### 2年(令和6年度3年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○主体的に学習に取り組む態度が7.5ポイント目標値を上回っている。 ●課題は前年度の知識・技能が4.7ポイント下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析  古典の単元の復習が不足している。既習事項が定着するような復習が必要であると考えられる。
	思考・判断・表現	≒	
	主体的に学習に取り組む態度	△	
国語科の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いの読み方、漢文の読み方の復習。</li> <li>・古文や漢文の読み方を問題演習を通して学び直す。</li> </ul>		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	現代仮名遣いに直すしたり返り点を意識して読む。	歴史的仮名遣いや漢文の返り点を読み間違えない。	現代仮名遣いに直すルール、返り点に直すルールを身に付ける。
②	古典作品の作品内容を把握する。	古文や漢文の文章内容を理解する。	古典の文章の特徴(主語や助詞の省略)に気を付ける。

### 2年(令和6年度3年)【数学】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	●目標値と比べて全体的に下回っている。 ●目標に対して活用が-10.3ポイント、思考・表現・判断で-8.7ポイント、記述については、-23.7ポイント(目標値30.0に対して6.3ポイントしか取れていない)と大きく下回っている。 ●主体的に取り組む学習態度が-10.3ポイントと下回っている。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析  記述に対する苦手意識が強いことと、学習に主体的に取り組めていないことが大きな要因ではないかと考えられる。
	思考・判断・表現	▼	
	主体的に学習に取り組む態度	▼	
数学科の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学習に取り組む態度の改善。</li> <li>・できた・わかったが実感できる授業の実施。</li> </ul>		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	関数	基礎知識の習得	難しい問題より、簡単であるという認識をもたせることを優先する。
②	記述	記述に対する苦手意識を薄める。	完璧に書かないと丸をもらえないという意識を軽減するために、どんな記述であっても書こうという意思を見せた場合は点数を与えて対応する。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

## 2年(令和6年度3年)【英語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○主体的な態度には、4.8ポイント向上が見られた。 ●活用問題や思考・判断・表現の問題に課題が見られた。 ●書いて答える問題に課題が見られる。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	英語に対して苦手意識が強い。特に書くことが苦手で、諦めてしまう生徒が多いことが要因であると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
英語科の重点目標	自身の考えをまとめ、英文にして表現すること。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文章を書かせる	自分の考えを端的にまとめ、英語で表現する力をつける。	スモールステップで段階的に文章を構成していく。
②	Q&A	問題の意図や内容をしっかりつかませ、適切に答える力をつける。	パターンプラクティスを用いる。

評価について	△	目標値を上回る	※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。
	≒	目標値と同程度	
	▼	目標値を下回る	

## (2) 全国学力・学習状況調査(令和6年4月実施)

### 国語

#### 考察(問題と結果の分析)

・資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことや、意見と根拠などの情報と情報との関係について理解すること、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることに課題がある。

#### 課題の要因分析

・話し合いの中で、話し手と自身が発言する内容を捉える力が双方ともに不足していると考えられる。

### 数学

#### 考察(問題と結果の分析)

- ・「文字式の説明」の正答率が埼玉県の半分程度の正答率である。
- ・記述式の問題の正答率が全体的に低い。(県比－9.7ポイント)
- ・思考・判断・表現の問題の正答率が低い。(県比－9.7ポイント)

#### 課題の要因分析

・文字式の表し方についての知識・技能が不足していると考えられる。



(3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和6年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

国語

学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性	
1年	校内	7-B		R6数値	3.4	3.4	3.3	3.8	3.6	3.3	3.8	
	県	7-A		伸び +or-								
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習方略・非認知能力は県や市町村平均と比較してすべての項目で下回っている。</li> <li>・学力レベルの伸びが4以上の生徒の8割が、柔軟的方略が4.3以上で、逆に学力レベルの伸びが-4以下の生徒は3割に満たない。</li> <li>・学力レベルは、県平均より1段階低い。</li> <li>・「目的に合った文章の構成を選び、選んだ理由を2段構成で書く」という問題の無回答率が10.5%であり課題である。</li> </ul> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて文章の構成を考え、理由を挙げながら自分の考えを書くなど、書くことを授業で取り入れていく。</li> </ul>											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
2年	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤勉性	
	校内	8-C	1	7-A	R6数値	3.6	3.4	3.5	3.8	3.6	3.3	3.7
	県	8-C	0	8-C	伸び +or-	0.0	-0.2	0.0	-0.1	-0.4	-0.1	0.5
<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力レベルは昨年度から1段階上昇している。</li> <li>・学習方略については、努力調整方略は-0.4と最も減少している。一方で、勤勉性については0.5と高い伸びとなった。他の項目については、県とほぼ同等のレベルである。</li> <li>・学力レベルの伸びが4以上の生徒の7割が、柔軟的方略が伸びているが、逆に学力レベルの伸びが-4以下の生徒は5割に満たない。</li> <li>・同じ音訓の読みの組み合わせの二字熟語を選択する問題の回答は無回答率は0%であるが正答率が28.8%と低くなっている。</li> </ul> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度からの伸びが見えるので、継続して学習の定着化を図る。</li> <li>・熟語、ことわざ、慣用句などの言語に関する問題の正答率が低いため、言語事項の問題演習を重ねて課題解決を図る。</li> </ul>												
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
3年	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心	
	校内	8-A	1	8-B	R6数値	3.7	3.6	3.6	3.9	3.7	3.3	3.8
	県	9-C	2	8-B	伸び +or-	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	0.2
<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力レベルは昨年度から1段階上昇している。</li> <li>・学習方略と非認知能力については柔軟的方略と認知的方略の伸びが県平均の伸びより足りていないが、その他の項目は、県平均と同等か、多く伸びがみられる。</li> <li>・学力レベルの伸びが4以上の生徒の5割以上が、自己効力感の伸びが県平均の伸びより上回っているが、逆に学力レベルの伸びが-3以下の生徒は1割に満たない。</li> <li>・文節の区切り方、用言、品詞についての回答は無回答率は0%であるが正答率が半分不到達しない。</li> </ul> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習方略の中ではプランニング方略と認知的方略がやや高い傾向になっている。また、非認知能力では自己効力感と自制心が高い傾向にある。このことから授業のルールに則り、自分の意見をどんな場面でも伝え合うことができる生徒の割合が高いと考えられる。これからも自己効力感を高めながら知識の蓄積に努めたい。</li> </ul>												

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和6年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

数学

学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会的性	
1年	校内	6-B		R6数値	3.4	3.4	3.3	3.8	3.6	3.3	3.8	
	県	6-B		伸び+or-								
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <p>学習方略・非認知能力は県や市町村平均と比較してすべての項目で下回っている。                      学力レベルの伸びが4以上の生徒の7割が、認知的方略が3.8以上で、逆に学力レベルの伸びが-4以下の生徒は3割程度である。                      学力を伸ばした生徒の割合を埼玉県平均を13.7ポイント上回っている。学力レベルについては県平均と同じレベルである。</p> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <p>体積や面積を求めることができた生徒の割合が著しく低いことから、図形における基礎的な知識が不足している傾向がある。また、データの活用についての正答率から語句の意味など基本的な知識が身につけていないものと思われる。一方で、思考・判断・表現の問題が県の平均を超えるなどの傾向も見られる。図形やデータの活用の単元では、小学校での既習事項を確認しながら進めるとともに、基礎的な知識が定着していくようにスモールステップで進めていく。</p>											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤勉性	
2年	校内	7-A	3	6-A	R6数値	3.6	3.4	3.5	3.8	3.6	3.3	3.7
	県	7-A	2	7-C	伸び+or-	0.0	-0.2	0.0	-0.1	-0.4	-0.1	0.5
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <p>・学力レベルの伸びについては、県平均を上回る結果となった。学力を伸ばした児童生徒の割合についても県平均を10.9ポイント上回っている。                      ・学習方略については、努力調整方略は-0.4と最も減少している。一方で、勤勉性については0.5と高い伸びとなった。他の項目については、県とほぼ同等のレベルである。                      ・学力レベルの伸びが4以上の生徒の7割近くが、努力調整方略が県平均より伸びているが、逆に学力レベルの伸びが-3以下の生徒は5割に満たない。</p> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <p>全県の結果と比べて、教科の領域、評価の観点、問題形式のすべてで下回っていた。その中でも特に低いのが、教科の領域では「資料の整理」であり、これは知識の定着が不十分であることが課題である。評価の観点で見ると、知識・技能に比べて、思考判断表現のマイナスが大きい。また問題形式については、記述式の回答が-12.0ポイントと県平均を大きく下回っていることから、記述に対して今後重点的に指導していく必要がある。</p>											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心	
3年	校内	7-A	0	7-A	R6数値	3.7	3.6	3.6	3.9	3.7	3.3	3.8
	県	8-C	0	8-C	伸び+or-	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	0.2
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <p>県平均同様学力レベルの伸びは見られず、学力を伸ばした児童生徒の割合は埼玉県平均より-5.7だった。                      ・学習方略と非認知能力については柔軟的方略と認知的方略の伸びが県平均の伸びより足りていないが、その他の項目は、県平均と同等か、多く伸びがみられる。                      ・学力の伸びが3以上の生徒の6割が努力調整方略の伸びが、県の伸びの平均を上回っているが、学力の伸びが-3以下の生徒は3割に満たない。</p> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <p>全体的に県平均より低い傾向ではあるが、その中でも特に図形・関数分野に関する正答率が特に低い。関数分野の正答率を見ると、2点を結ぶ直線の式の導出が-17ポイントとなっており、定着していないことが見受けられたり、等式の変形が-8.6ポイントとなっていたりするなど、特定の範囲において極端に正答率が低い問題が見られる。また思考・判断・表現力については県の平均を-3.6となっており、課題が見られる。そのため、既習事項の確認をしながら授業を進めるとともに、復習を中心とした家庭学習の習慣化を図り、学習内容を定着させる必要がある。</p>											

### (3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和6年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

#### 英語

学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤勉性	
2年	校内	9-C		R6数値	3.6	3.4	3.5	3.8	3.6	3.3	3.7	
	県	9-C		伸び +or-	0.0	-0.2	0.0	-0.1	-0.4	-0.1	0.5	
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力レベルは県平均を若干下回るが9-Cで同じレベルである。</li> <li>・学習方略については、努力調整方略は-0.4と最も減少している。一方で、勤勉性については0.5と高い伸びとなった。他の項目については、県とほぼ同等のレベルである。</li> <li>・学力レベルが10以上の生徒の7割近くが作業方略が昨年より伸びているが、学力レベルが6以下の生徒は3割の生徒しか伸びていない。</li> </ul> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <p>AI型教材を活用し、基本的な知識技能を習得させる。先の見通しを持たせる授業の工夫を行い、プランニング能力の向上に努める。学習形態も個別最適化を図り、スモールステップを大事にして、自己の努力調整が図れるようにする。</p>											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
3年	校内	9-A	3	8-A	R6数値	3.7	3.6	3.6	3.9	3.7	3.3	3.8
	県	10-C	3	9-C	伸び +or-	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	0.2
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力レベルは県同様3段階伸びている。</li> <li>・学習方略と非認知能力については柔軟的方略と認知的方略の伸びが県平均より伸びが足りないが、その他の項目は、県平均と同等か、多く伸びがみられる。</li> <li>・学力レベルの伸びが3以上の生徒の6割が、認知的方略の伸びが県の伸びの平均を上回っているが、学力レベルの伸びが0未満の生徒は5割に満たない。</li> </ul> <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <p>自分が考える方略と自分の力を伸ばすために必要な方略が異なる傾向が見られるため、多様な学習方法を薦め、授業でも実践していき、生徒に促していく。</p>											

## 2 学力向上を図る取組

### (1) 各教科の授業における取組

#### 本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①読む、聞く、話す力の育成 ②計算力の育成 ③知識・技能に繋がる理解力	④課題や問題に向き合い、解決していく力の定着 ⑤自らの考えや思いを伝える力の育成	⑥粘り強く学習に取り組む姿勢や態度 ⑦自らの学習方法や態度がより良いものになるように調整する力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、④、⑤	集団で課題に取り組み、解決する活動を取り入れる。	
社会	①、⑤	少人数での話し合い活動を積極的に取り入れる。 共同編集機能のあるアプリを活用する。	
数学	②、④、⑤、⑥	課題を解決するために、見通しを持って取り組ませることや少人数での話し合い活動を実施する。 小テストや計算プリントに取り組み、学力の定着が不十分である生徒に対する補習を行う。	
理科	③、④	AI型教材の利用等、ドリルによる反復学習を習慣化する。仮説→結果→考察→まとめの過程から科学的な思考力をもとにしたレポートの書き方の定着を図る。	
外国語	③、⑤、⑦	AI型教材を活用し、基本的な知識・技能を習得させ、振り返りを通して自己の課題や頑張りを認められるようにする。	
音楽	④、⑤	考えや思いを言語化するためのヒントを提示し、少人数での意見交換の場を取り入れる。	
美術	⑤、⑥	アイデアを出す手助け資料を提供し、完成作品は全員展示する。	
技術	③	自主学習に使えるコンテンツを作成する。そして、そのコンテンツを題材ごとに使用する時間を確保する。	

家庭	④、⑥	自己や家庭での課題を設定し、よりよい生活を送ることができるようレポートやパフォーマンス課題の設定をする。	
保健体育	④、⑥	仲間と協力する中で運動のポイントを言語化し、課題解決を図る場を設定する。前向きに、かつ粘り強く取り組む姿を、生徒自身も具体的に理解して行動の改善に繋がられるようにする。	
特別の教科 道徳	①、⑤	自分の意見を発信したり、相手の意見に傾聴したりする。意見が言えない生徒に対して ICT 端末で視覚的補助を行う。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

## (2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
○「太平ゼミ」の実施	○定期テスト前の部活動停止期間中に、自分の課題を持ち寄り、学習する場を提供する。分からない問題がある場合は、生徒からの質問に答えて学習補充を行う。
○夏季休業中の補習	○夏季休業中、各教科担当で必要な補習を行う。
○協同・協働学習 T・L・I 「太平ラーニングイノベーション」	○少人数のグループに分かれ、話し合い活動を通して答えを探していく学習の機会を増やし、粘り強く考える姿勢や他者と協力して解決策を考える力を身に付けさせる。
○朝読書における読み聞かせの実施	○各学期に1～2回、朝読書の時間を利用して、学校運営協議会員、保護者による読み聞かせを実施する。
家庭教育との連携	
○道徳通信の発行	○月に一度、道徳通信を発行する。各教員より道徳に関する話題や実体験等を踏まえた内容とし、発行日の朝読書の時間に活用する。
○情報通信の発行	○ネットリテラシー、ネットモラルなど定期的に家庭への啓発を図る。
○学校だより、学年だよりの発行	○学校での生徒の活動の様子や、今後の予定を知らせる。
○太平ノート・テスト計画表の利用	○太平ノートを利用し、家庭学習時間を記入する。定期テスト前にはテスト計画表をつくり、毎日の学習の進捗状況を担任と家庭とで共有する。 ○特別支援教育の教育支援プランに基づいた面談を実施する。
○三者面談	○ホームページは週1回更新して、情報発信を積極的に行う。
○ホームページ	○学校からの文書や各部活動からの連絡等さくら連絡網で発信することにより確実に情報が家庭に届くようにする。
○さくら連絡網	